

# NAKATSUGAWA CENTRE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT



寄仕しよう みんなの人生を豊かにするために



## クラブテーマ 「不易流行」 ～ロータリークラブのニューノーマルとは～

### 【中津川 2RC 合同例会】

パルティール AI 12:00~13:30

- ・開会点鐘
- ・国歌「君が代」Rソング「奉仕の理想」
- ・ゲスト、ビジターの紹介
- ・両クラブ会長の時間
- ・出席、委員会報告／幹事報告
- ・スマイルボックス発表
- ・新入会員の紹介
- ・卓話の時間 題「膵がんの治療」  
名古屋セントラル病院 院長 中尾昭公先生
- ・閉会点鐘

\* 昼食持ち帰り

### 本日のゲスト紹介



名古屋大学 名誉教授  
名古屋セントラル病院 院長  
医学博士

なかお あきまさ

**中尾 昭公 先生**

卓話「膵がんの治療」

中尾先生の略歴は最終ページにてご紹介

### 連絡事項

- ・蔓延防止期間は例会 12:30~13:20  
お弁当お待ち帰りとします。  
体温計測の記録をお願いします。
- ・確定申告用の寄付領収証は 2月上旬に届き次第、事務局から郵送します。

### 出席報告

1月24日(月) 65.38%

会員総数 55名 免除者 3名

### Coming Soon ~今後の例会プログラム~

【蔓延防止期間の例会：12:30~13:20 お弁当お持ち帰り 会場：パルティール AI】

- ・2月 7日(月) 通常例会（奉仕プロジェクト常任 国際奉仕委員会）  
卓話：中津川市消防本部 消防長 河合丈夫氏
- ・2月 14日(月) 通常例会（会計・執行部）卓話：楯 昌宗氏（元バスケットボール選手）
- ・2月 21日(月) 創立記念例会（執行部）卓話：板頭鈔三パスト会長 \*定例理事会
- ・2月 28日(月) 特別休会
- ・3月 7日(月) 8日(火)へ移動
- ・3月 8日(火) ガバナー補佐訪問 3RC 合同例会 ホスト：恵那 RC  
例会 15:35~ IM16:40~ 懇親会 17:30~  
会場：倶楽部いち川（懇親会会場：旅館いち川）

中津川センターRC  
ホームページ



## ～中尾先生を迎えて～



本日はこのコロナ禍のなか、中津川クラブとの合同例会に多数ご参加いただき誠に有難うございます。昨年のデルタ株の猛威により一旦は中止となり、年明けに仕切り直したところではありますが、再び蔓延防止期間となってしまいました。再び中止としてしまうことはいかんともし難く、医療従事者の私が会長であればこそ、『うつらない、うつさない』をモットーにこんな時期でも安全にロータリー活動を継続しようという決意に至りました。食事をご一緒できないことは残念ではありますが、体温計測、手指消毒、常時換気のため扉を開けておく、またマスクを絶えず装着していただくため敢えて飲み物を提供しない等、皆様方に大変ご迷惑をおかけすることをお詫び申し上げる次第です。

しかし、それを差し引いても有り余るほどの素晴らしいゲストを迎える事ができたことをとても嬉しく思います。

中尾昭公先生の御略歴は後程お伝えするとして、まずは会長の時間として私個人の思い出を話そうと思います。

今をさかのぼること 35 年ほど前、研修医上がりの私は九州の学会に物見遊山に行っておりました。その中で一番活気づいていた膵臓がん手術のシンポジウムでの事です。1000人近くは居ようかという膵臓がん手術法のシンポジウムで、会場は満席で私は立ち見でした。日本を代表する膵臓がん治療の強者たちが壇上におりました。当時はまだまだ合併症が多く論議の多い手術でした。シンポジウムも終盤に近づいた時、フロアーから大きな声で質問をした医者がおりました。それが初めて中尾先生を拝見したときでした。既にご自身が開発した手術法にかんしての安全性を提言する内容でした。今でも内容を覚えているほど印象に残っております。その質問に答えた壇上の有名な教授の返答がとてもポンコツであったことも覚えております。その時に名古屋大学第 2 外科にはすごい先生がみえるのだとわくわくした肌感覚は今も忘れることはありません。

その後、医局で研究生となった私は、膵臓がん手術成績の解析もさせていただき、何度か中尾先生のかばん持ちをさせていただきました。ピッツバーグ大学留学から帰ってきた当時のことです。行く先々で一番高いところに必ず赴くということがルーチンでした。先生は覚えていないことでしょうが、なかでも札幌へ研究会で行ったときは、『おい、赤座、ジャンプ台に行くぞ！』と言われ、二人で大倉山シャンツェに上って札幌の街を見下ろしたことは、私にとっては忘れられない思い出です。

以上、卓話前のイントロとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

# 1月24日(月)例会報告

卓話：平岩正光 岐阜県議会議員 12:30 パルティール AI



開会点鐘・Rソング



会長の時間：赤座会長



卓話ゲスト：平岩正光県議



理事会報告：成木幹事



会員慶事：山神君



出席報告：加藤委員長



スマイル発表：藤井君



3/12 同好会コンペ開催  
同好会 会長 二村君



卓話者紹介：吉村プログラム委員長



卓話の時間：平岩正光県議



中津川市山地災害と治山事業 コロナの推移と県の対策について



## スマイルボックス

本日の申告 23P 累計 P375

- ・岐阜県議会議員平岩正光様、本日はご多用の中当クラブ例会にお越し頂きまして有難うございます。本日の卓話を宜しくお願いたします。
- 2022年初めての例会となります。改めまして明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いたします。今期も残り半分となりましたが、引き続き皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いたします。 **会長 赤座 薫 副会長 丹羽大祐 幹事 成木崇久**
- ・誕生日を祝って頂き有難うございます。  
**幸協利幸 安藤 茂 小木曾輝栄 二村国彦**
- ・妻の誕生日を祝って頂きまして有難うございます。  
**伊藤博行 小木曾輝栄**
- ・結婚記念日を祝って頂きまして有難うございます。 **村上幸博**

## 1月定例理事会報告 1月24日(月) パルティール AI 12:00

- ・2月、3月例会プログラムの承認（蔓延防止期間は12:30~13:15 昼食持ち帰り パルティール AI）
- 3/28(月)ゲスト：伴奏者2名、1名のみ謝礼1万円用意。
- ・食事券集計報告 板頭親睦委員長より2月理事会にて事業報告上程
- ・3/8(火)3RC合同例会プログラム・予算表（ホスト：恵那RC）例会15:35点鐘  
質問：出席予定者100人だが会場に入り切れるのか？ 回答：会場のキャパを確認します。
- ・蔓延防止重点措置期間の例会欠席の扱いについて 提案：蔓延防止重点措置期間の例会出席について、体調不良、不安、その他蔓延防止期間が理由での例会欠席は欠席扱いとしないこととしたい。  
意見：事務局は必ずその旨の連絡を入れるようにする。→全会一致で承認
- ・その他 無し 以上

## 他クラブ例会変更案内

- ・中津川RC：2/3、2/10(木)→蔓延防止休会
- ・瑞浪RC：2/4、2/18→蔓延防止休会
- ・恵那RC：2/5 創立年記念式典→延期、2/8(火)zoom 例会
- ・多治見RC：2/2、2/16(水)→蔓延防止休会
- ・多治見西RC：2/3、2/10、2/17(木)→蔓延防止休会

## 本日の卓話講師ご紹介



氏名 なかお あきまさ  
**中尾 昭公** 先生

名古屋大学 名誉教授  
名古屋セントラル病院 院長  
医学博士

昭和 23 年 1 月	岐阜県恵那市生まれ
昭和 41 年 3 月	岐阜県立恵那高等学校卒業
昭和 48 年 3 月	名古屋大学医学部卒業
昭和 48 年 4 月	愛知県尾西市民病院外科研修
昭和 50 年 7 月	岐阜県立多治見病院外科勤務
昭和 55 年 7 月	名古屋大学医学部第二外科 帰局 肝臓研究室所属（肝・胆道・膵外科）
昭和 58 年 8 月	名古屋大学医学部第二外科文部教官助手
昭和 62 年 4 月	同 文部教官講師
平成 元年 9 月	米国ピッツバーグ大学外科留学
平成 2 年 7 月	名古屋大学医学部第二外科文部教官講師に復職
平成 4 年 3 月	名古屋大学医学部第二外科助教授
平成 11 年 2 月	名古屋大学医学部第二外科教授
平成 18 年 5 月	名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学教授
平成 23 年 3 月	同 教授退任
平成 23 年 4 月	名古屋セントラル病院院長就任、現在に至る。

膵癌を中心とした消化器悪性疾患の診断、外科治療に従事。腫瘍マーカー、癌免疫組織化学、癌遺伝子診断と治療、肝移植、血液凝固、エンドトキシン、抗血栓性材料、ヘルペスウイルスを用いた癌治療等の研究を手掛けてきた。とくに膵癌手術において、1981年に抗血栓性門脈バイパス用カテーテルを開発、門脈カテーテルバイパス法を考案。1992年には Mesenteric Approach（腸間膜到達法）など多くの新手術術式を確立してきた。難治癌と言われる膵癌手術において手術成績の向上をもたらし、外科治療分野への著しい貢献を果たしている。門脈バイパス用カテーテルは、医学における歴史的意義を有し、科学技術の進歩に貢献する医科器械として認められ、財団法人日本医科器械資料保存協会の医科器械史研究賞を受賞（2008年）、また、癌に対する外科治療の功績が認められ第19回一般社団法人日本癌治療学会中山恒明賞を受賞した（2013年）。

臨床活動の他、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本癌治療学会をはじめとする外科系や癌治療に関する国内の多くの主要学会で理事、評議員等の役員を歴任。第110回日本外科学会定期学術集会会頭、第41回日本膵臓学会大会会長を務めた。海外でも業績を認められ、タイ王立外科学会（Royal College of Surgeons of Thailand (2008)）、エジプト外科学会（Egyptian Society of Surgeons (2010)）、ヨーロッパ外科学会（European Surgical Association (2011)）、フランス外科学会（French Surgical Association (2011)）、スペイン外科学会（Spanish Society of Surgeons (2015)）、セルビア外科学会（Serbian Medical Academy (2016)）等から名誉会員の称号を授与された。平成30年10月には第104回米国外科学会（American college of surgeons）において日本人として17人目の名誉会員に選出された。NPO法人「若手外科系医師を増やす会」理事を務め、外科医労働環境改善や外科医師育成のための社会的活動にも努めている。

現役外科医として外科治療に、また若手外科医への手術指導に積極的に従事している。現在、名古屋大学在籍中に開発した Mesenteric Approach が、従来の手技に比較して膵癌術後の生存率に優位性を認める研究結果が発表され、さらなる検証を行うべく MAPLE study として多施設合同臨床試験が進められている。